

「バイト代」割合増加

大学生協連 大学生の生活費調査

全国大学生生活協同組合連合会（大学生協連）は1日、昨年10、11月に実施した「第57回学生生活実態調査」の結果を発表しました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活状況の変化がデータに表れています。

1カ月の収入は、自生者が6万3630円で、前年から810円増。下宿生は12万5280円で、3030円増でした。

収入全体に占めるアルバイトの割合が前年に比べて増え、生活を維持するために学びながら働く学生の実態が浮き彫りになりました。特に自生者では収入の62・6%がアルバイトで、1970年以降で最大となりました。

下宿生の仕送りは7万1880円で、1470円増。仕送り「0円」の学生は7・5%でした。

1カ月の支出は自生者が6万2970円（840円増）で、下宿生が12万5040円（3860円増）となりました。

調査には国公私立大学の97生協が参加し、2万2481人が協力。経年の変化を見るため、このうち30生協の1万813人から得た回答をまとめました。

た。

大学生協連の中森一朗専務理事は、調査結果について「対面の講義よりオンライン講義のほうが多い学生が多数派となっている」と指摘。「コロナ禍で入学した2年生は、他の学年に比べて『生活充実」

度」が低いなどの懸念もある」と述べました。

学生委員長の魚田咲さんが、「まともに学校に行って授業を受けたことがなく、このまま就活や卒業を迎えることに不安がある」（2年）など学生の声を紹介しました。

「コロナ中退」4割増

文科省 昨年4月以降1937人

新型コロナウイルスの影響で昨年4月以降に大学などを中退した人は1937人おり、前年同期と比べて約4割増えたことが2日までに、文科省の調査で分かりました。中退の理由は「学生生活に不適応・修学意欲低下」が最も多く、「経済的困窮」を上回りました。文科省は「対面授業や交流の必要性を大

学側に訴えていく」としています。

調査は全国の国公私立大、短大と高専を対象。昨年4～12月の中退者のうち、コロナが理由だったのは1937人で、学生全体に占める割合は0・06%でした。2020年4～12月は1367人、割合は0・05%でした。

理由別では、「不適応・意欲低下」が30・3%で、「経済的困窮」の19・9%を上回りました。20年は困窮が28・1%、不適応が20%でしたが、逆転しました。コロナを理由とした休学者数も調査。昨年

12月末時点では5855人で、前年同期より約3割増えています。